

カラスよりも賢く



被害軽減のヒント



第2回で紹介した通り、カラスは視覚が優れている。逆に、嗅覚は鈍い。カラスは食べ物をおいで発見していると勘違いされがちだが、鼻には頼らず、眼で見つけている。

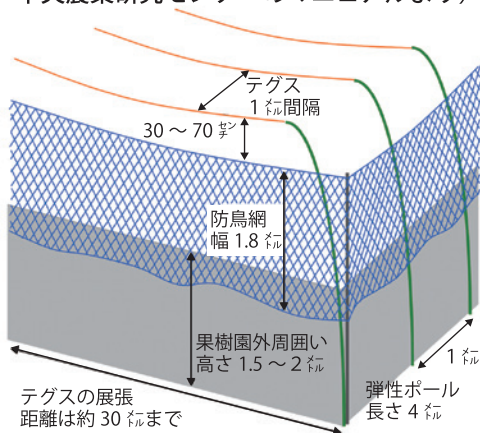
カラスは嗅覚が悪いことを踏まえると、臭いでカラスに忌避させる対策は難しいといえる。嗅覚を刺激する酢酸を大量に振りかけた餌を提示する実験を行ったところ、カラスは強烈な臭いを気にせずに食べていた。唐辛子に含まれる辛味成分のカプサイシンを用いた対策もあるが、鳥類はカプサイシンに対する感受性

そこで、農作物の残さを土に埋める、生ごみをごみ袋の奥に入れるなど、カラスから見えないようにするだけで、荒らされにくくなる。

しかし、カラスが餌場であると学習してしまうと、食べ物が見えなくても執拗に飛来する。また、群れが群れを呼ぶ性質があるため、カラスにとって格好の餌場は、続々と

③ 習性を利用した対策 その1

「くぐれんテグス君」の構造（農研機構・中央農業研究センターのマニュアルより）



が非常に低いため、カラス対策に有効とは思えない。

余談だが、トウガラシは、

哺乳類には食べられないようにしつつ、種を丸呑みして遠くに運んでくれる鳥類には食べてもらえるようにカプサイ

シンを作るようになったと考えられている。カラスの可聴域はヒトよりも狭い。したがって「ヒトには聞こえず、カラスには聞こえる」というような音はないと考えられる。つまり、ヒトの可聴域を超えた周波数の音である超音波によってカラスに忌避させることはできない。

最も有効な対策は物理的に侵入を防ぐことである。例えば、翼の触覚が敏感なことを利用したテグスの張り方がある。

「くぐれんテグス君」設置マニュアルで検索。

次回、カラスの警戒心を利用した対策を紹介する。

敏感な触覚を侵入防止に

row Lab代表
(塚原 直樹 株式会社C)